

### 3 「田んぼダム」の営農への影響

「田んぼダム」は水稻の生産に影響を与えない範囲で、農業者の協力により実施する取組です。

#### (1) 水位の上昇

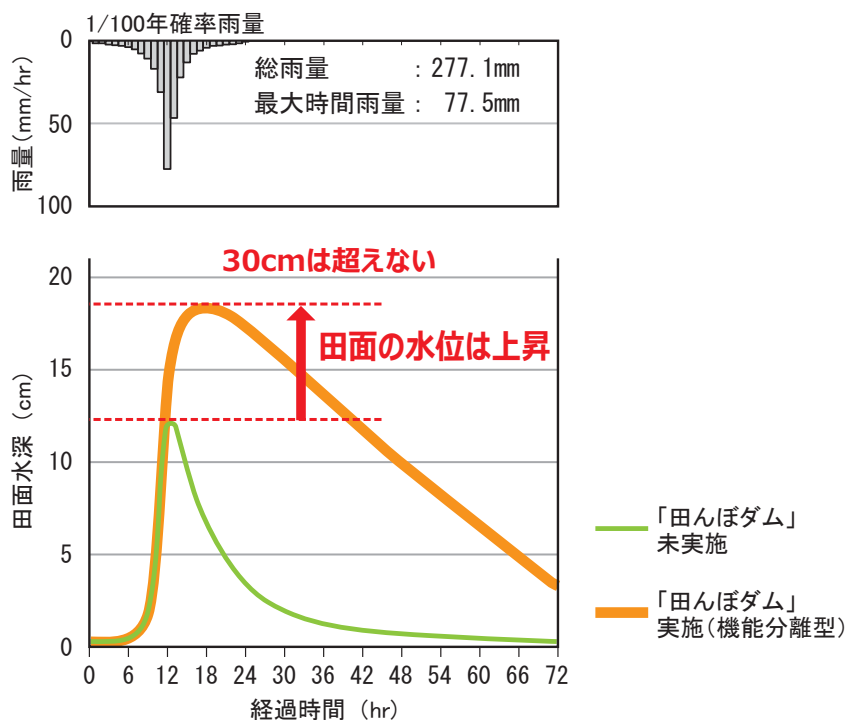
「田んぼダム」に取り組むと、大雨が降った際、田面の水位は通常より上昇します。しかし、流出量調整器具の小さな穴からは時間雨量50mmに相当する流量を排水することが可能なので、畦畔（30cm）を超える水位にはなりません。

また、国が「田んぼダム」を実施している地区で行ったアンケート調査においても、湛水が畦畔を超え、畦畔が崩れるような被害が生じたという回答はありませんでした。

なお、機能分離型の流出量調整器具（※P14参照）を使用する場合は、通常の雨で水位は上昇しません。

大雨が降った際、田面の水位は通常より上昇しますが、畦畔(30cm)を超える水位にはなりません。

シミュレーション結果によれば、1/100年確率雨量（最大時間雨量 77.5mm、総雨量 277.1mm）であっても、田面水深は 20cm を超えていないことから、十分な高さがある堅固な畦畔を整備していれば、畦畔を超えるような貯留には至らず、畦畔からの越流は生じないことが分かります。



出典：「「田んぼダム」の手引き」令和4年4月（農林水産省）を加工して作成

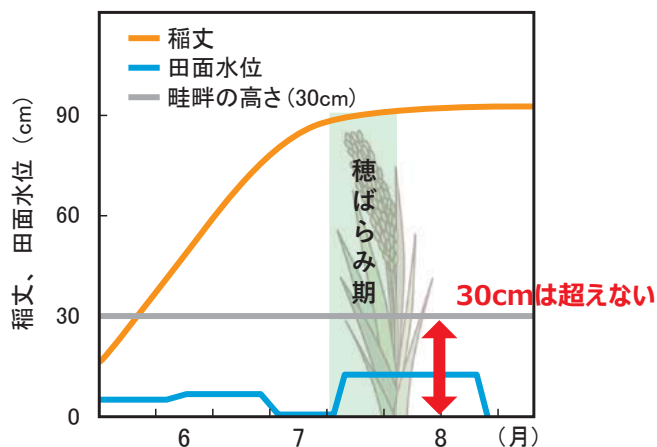
畦畔の高さを超える湛水が生じる場合は、水田に降った雨によって湛水しているのではなく、地域の排水能力を超えた降雨によって排水路や河川などから水が溢れて水田に逆流していることが原因であり、「田んぼダム」の取組の実施と関係なく発生する現象です。

出典：「「田んぼダム」の手引き」令和4年4月（農林水産省）

## (2) 収量への影響

稲が水に浸かることによる減収の被害は、穂ばらみ期において最も発生しやすいことが明らかになっています。しかし、穂ばらみ期の稲丈は畦畔(30cm)以上に達していることから、「田んぼダム」に取り組むことによって水位が上昇したとしても、減収は発生しないと考えられます。

水位の上昇による減収は発生しないと考えられます。



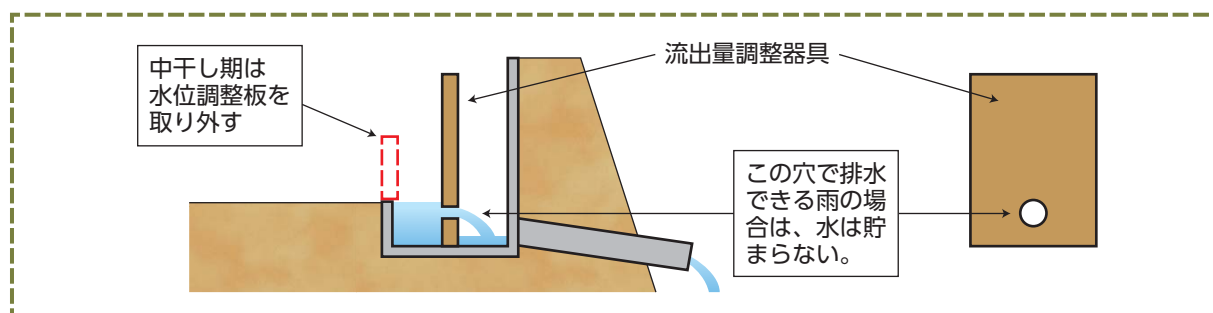
出典：弘前大学 丸居篤教授 資料を加工して作成

## (3) 中干し等への影響

中干し期や収穫期などに水田に水が貯まることを不安に思う農業者もおられると思います。

流出量調整器具の種類によっては、通常の雨でも水田に雨水が貯まりやすくなることもありますが、機能分離型の流出量調整器具を使用する場合は、通常の雨では、そのまま落水口から排水されるため、水田内に雨水は貯まりません。

通常の雨では、そのまま落水口から排水され、水田内に雨水は貯まりません。



## (4) 落水口の詰まり

流出量調整器具を使用することによって落水口の穴が小さくなるため、時期によってワラコなどが詰まりやすくなります。

なお、コーン式の流出量調整器具は、渦を巻いて水が流れ落ちるので、ゴミが詰まりにくいという特徴があります。(※P17参照)

特に春先は、落水口の詰まりがないか点検しましょう。